



取扱説明書

CX315

**2DIN Bluetooth[®]/CD/USB/
MP3/WMAレシーバー**

このたびはクラリオン製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

安全に正しくご利用いただくため、ご使用前にこの『取扱説明書』をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところ（グローブボックスなど）に必ず保管してください。

保証書（別添）はお買い上げの販売店で記入いたしますので、「お買い上げ日・販売店名」などの記入をご確認のうえ、大切に保管ください。

目 次

はじめに

主な特長	3
ご使用の前に	4
取扱上のご注意	6

本機の操作

各部の名称とはたらき	8
基本の操作	12
オーディオの設定をおこなう	14
システム設定をおこなう（アジャストモード）	15
ラジオを聴く	18
CD/MP3/WMA を聴く	20

外部機器の操作

USB 機器のオーディオファイルを聴く	26
iPod を操作する	28
Bluetooth をつかう	31
ポータブルオーディオ（AUX）	38

その他

故障かな？と思ったら	39
仕 様	44
アフターサービスについて	47

取付説明

主な特長



■Bluetooth® 内蔵によりハンズフリー通話とオーディオストリーミング再生に対応

■USB 接続による iPod® / iPhone® 音楽再生

■USB/AUX 端子を前面パネルに搭載

※ “Made for iPod,” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod or iPhone may affect wireless performance.

iPhone, iPod and iTunes are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

※iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

※Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth® SIG, Inc. が所有する商標であり、クラリオン（株）は許可を受けて使用しています。

ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この『取扱説明書』の表示では、製品を安全に正しくご使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った使用をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った使用をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中には具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

安全上のご注意

- 安全のため、ご使用の前に『取扱説明書』をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところ（グローブボックスなど）に必ず保管してください。

■使用上のご注意

⚠ 警告

- 運転者は走行中に操作をしない…
前方不注意となり事故の原因となりますので、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。
- 本機を分解したり、改造しない…
事故や火災、感電の原因となります。
- ディスプレイ部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない…
事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。
- ディスク挿入口や機器内部に水や異物を入れない…
火災や感電の原因となります。

⚠ 警告

- 万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な臭いがするなどの異常が起こったときは、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談する…
そのまま使用すると事故や火災、感電の原因となります。
- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のヒューズを使用する…
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。同じ規格の同じ容量のものと交換してください。

⚠ 注意

- 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度で使用する…
車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。
- ディスク挿入口に手や指を入れない…
けがの原因となることがあります。
- 本機を車載用以外には使用しない…
感電やけがの原因となることがあります。
- 電源を切るときは、音量を最小にする…
電源を入れたときに突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- 音声割れる、歪むなどの異常状態で使用しない…
火災の原因となることがあります。
- 本機の取付場所変更は、安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼する…
専門技術と経験が必要です。



取扱上のご注意

ご確認事項

-  マークのついた CD をご使用ください。
- また、シースルーディスク（半透明 CD）、ハート形や八角形など、特殊形状の CD はご使用しないでください。取り出せなくなる場合があります。
- CD-R/RW で記録されたディスクでもご使用できない場合があります。
- CD-ROM は、本機ではご使用できません。
- 車内が極度に冷えた状態のとき、ヒーターを入れてすぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が曇って正常な動作を行わないことがあります。ディスクが曇っているときは、やわらかい布でふいてください。また光学部品が曇っているときは、1 時間ほど放置しておく、自然に曇りがとれ、正常な動作に戻ります。
- 本機は USB1.1/2.0 互換で、MP3/WMA フォーマットのファイルが再生できます。
- 本機の USB スロットに接続をして再生できる USB 機器は、「**USB マスストレージクラス**」として認識されることが条件となりますが、すべての USB 機器の動作を保証するものではありません。
- 2 つ以上のドライブで構成されている USB 機器は、どちらか一方のドライブのみを認識します。
- セキュリティー機能の付いた USB 機器は再生できません。
- 使用する USB 機器が「**USB マスストレージクラス**」に準拠しているかは、販売メーカーにお問い合わせください。
- iTunes® Music Store で購入した楽曲や著作権保護されたファイルを CD-R や USB ヘコピーしての再生はできません。

本体のお手入れについて

- 本機をお手入れするときには、やわらかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布に付けて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。



- 樹脂加工部に、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用しないでください。部品変形により故障することがあります。
- 自動車用クリーナーなどは使用しないでください。変質したり、塗料がはげたりする原因となります。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミのつくことがあります。

ディスプレイについて

- 本機のディスプレイ部（アクリル部品）の一部分に、細いスジが見える場合があります。これは製造過程でやむを得ず生じるもので、「傷」や「ひび割れ」などではありません。また、本機の性能および安全性を損なうものではありません。
- 直射日光などの関係により、製品に光が反射する恐れがあります。運転の際は十分ご注意ください。

表示画面について

- 非常に寒いときに、画面の動きが遅くなったり、画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。

- 液晶画面の表示色が、本体の熱や車内の温度によって変色することがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。常温に戻れば回復します。

エラー表示について

- 本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには、「エラー表示について」の項目（43 ページ）を参照して障害を取り除いてください。障害を取り除けば、通常の動作になります。

CD の再生について

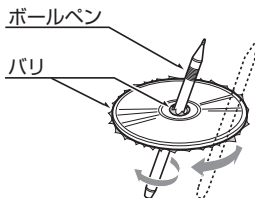
- 本機は精密な機構を使用しているため、万一異常が発生したときでも、絶対にケースを開けて分解したり、回転部分に注油したりすることはやめてください。
- ディスクを再生中、振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- ディスクをイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下する恐れがあります。

CD について

■ 取扱上のご注意

- CD-R、CD-RW は、通常の音楽 CD に比べ高温多湿の環境に弱く、一部のディスクでは再生できない場合があります。車室内に長時間、放置しないようにしてください。
- 各種コピーコントロール CD は、CD 規格に合致しない特殊ディスクであり、本機は CD 再生機器における再生保証は致しかねます。万一、このような特殊ディスクの再生に支障がある場合には、CD の発売元にお問い合わせください。

- 記録面に、傷、指紋、ほこり、汚れなどを付けないように扱ってください。
- レーベル面（印刷面）や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があったりする CD は使用しないでください。そのまま CD プレーヤーに入れると、CD が取り出せなくなり、故障の原因となります。
- 新しいディスクには、ディスクの周囲に「バリ」が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。ディスクにバリがあるときは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。



■ CD の保管時のご注意

次のような場所には保管しないでください。

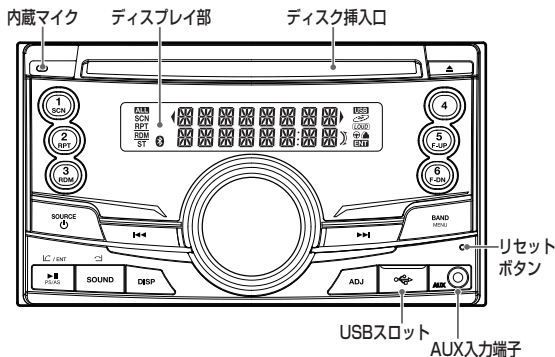
- 直射日光の当たる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 暖房の熱が直接当たる場所

■ CD のお手入れ

- ディスクが汚れたときには、やわらかい布で、内側から外側へ向かって、よくふいてください。
- レコードクリーナー液やアルコールなどでふかないでください。

各部の名称とはたらき

本体部



[SOURCE 〇]

電源/ソースボタン

- ・電源を入れ、各モードに切り替えます。
- ・電源を切るときは押し続けます。(約1秒間)



[<<], [>>]

サーチボタン

- ・ラジオモード時の選局に使います。
- ・ディスク、USB機器、iPod、Bluetoothオーディオモード使用時は選曲に使います。押し続けると早送り/早戻しを行います。
- ・各種設定時に項目を選択します。



[BAND/MENU]

バンドメニューボタン

- ・iPodモード時、iPodのメニューからカテゴリーを選択できます。



[▲]

イジェクトボタン

- ・CDが入っているときに押すと、CDがイジェクトされます。

⏮ / ENT

▶⏮
PS/AS

[▶⏮/PS/AS] [⏮/ENT] ボタン

- ・ CD/MP3/WMA/USB/iPod/Bluetoothオーディオモード時に、再生または一時停止をします。
- ・ ラジオモード時、ダイレクトボタンにメモリーされている放送局を順に受信します。
- ・ ラジオモード時、押し続ける（約2秒）と、オートストア機能となり、受信できる放送局を順にメモリーします。
- ・ 携帯電話モード時は、電話を受けることができます。
- ・ アジャストモード時の各種設定に使用します。

🔊

SOUND

[SOUND/🔊] サウンドボタン

- ・ オーディオの各種調整をします。
- ・ 携帯電話モード時は、通話を終了する、もしくは着信を拒否します。

DISP

[DISP] ディスプレイボタン

- ・ ディスプレイ表示を切り替えます。

ADJ

[ADJ] アジャストボタン

- ・ 調整モード（アジャストモード）になります。



[ROTARY] ロータリーノブ

- ・ 音量を調節します。
- ・ アジャストモード時の各種設定に使用します。



[DIRECT] ダイレクトボタン

- ・ ラジオモード時に、登録した放送局を呼び出します。押し続けて（約2秒間）、ダイレクトボタンに放送局をメモリーします。



[SCN] スキャンボタン

- ・ CD/MP3/WMA/USBモード時、約10秒間ずつスキャン再生をします。



[RDM] ランダムボタン

- ・ CD/MP3/WMA/USB/iPodモード時、ランダム再生をします。



[RPT] リピートボタン

- ・ CD/MP3/WMA/USB/iPodモード時、繰り返し再生をします。
- ・ トラックリピート、フォルダリピートのオン/オフを切り替えます。



[F-UP], [F-DN] フォルダアップダウンボタン

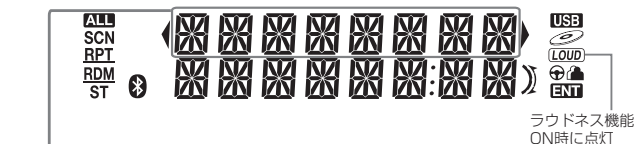
- ・ MP3/WMA/USBモード時、フォルダを切り替えます。



各部の名称とはたらき

モード別ディスプレイ表示

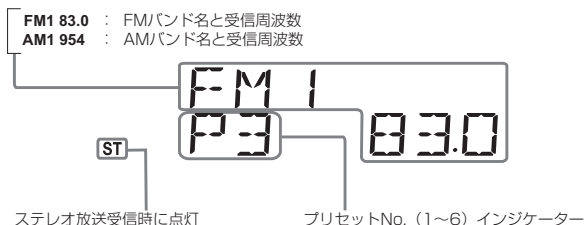
■各モード共通の表示



タイトル表示部

- ・モード表示（モード切換時に約2秒間表示します。）
 - TUNER** : ラジオモード
 - DISC** : CD/MP3/WMAモード
 - USB/IPOD**: USBモード/iPodモード
 - BT AUDIO**: Bluetoothオーディオモード
 - AUX** : AUXモード
 - BT TEL** : 携帯電話モード
- ・時計表示（ディスプレイボタン押し時）
- ・タイトル表示
受信中の周波数やMP3/WMAファイルのタイトルなどを表示します。
詳しくは、各モードの表示をご覧ください。

■ラジオモード時の表示



■CD/MP3/WMAモード、USBモード時の表示



基本の操作

電源を入れる・電源を切る

- 1 [SOURCE 𠂇] ボタンを押す

⚠ 注意

- ・バッテリーあがり防止のため、本機をご使用するときは、エンジンをかけた状態で行ってください。

- 2 電源を切るには[SOURCE 𠂇] ボタンを押し続ける（約1秒間）

⚠ 注意

- ・電源を切るときは、音量を最小にしてください。電源をいれたときに突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

ソースを選ぶ

ラジオ・CD・AUX などのソースを選ぶ時に使用します。

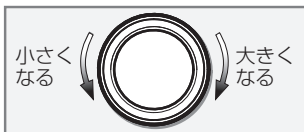
- 1 [SOURCE 𠂇] ボタンを押す

→ 押すたびに、次のようにソースが切り替わります。

TUNER → DISC → USB/IPOD
← BT TEL ← AUX ← BT AUDIO ←

音量を調節する

- 1 [ROTARY] ノブを回す



⚠ 注意

- ・運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量にしてください。

時計を表示する

- 1 [DISP] ボタンを押して、時計表示を選ぶ

→ 「表示を切り替える」(13ページ) の手順をご覧ください。時計表示を選んでください。時計表示となります。

時刻を合わせる

- 1 [ADJ] ボタンを押す

→ [◀◀] または、[▶▶] ボタンを押すたびに、次のように項目が切り替わります。

12/24HR ↔ CLOCK EDIT ↔ AUX SENS
↙ FACTORY RESTORE ↔ SWRC ↔ BEEP ↗

2 [CLOCK EDIT] を選び、
[ENT] ボタンを押す

3 [◀◀], [▶▶] ボタンを押して、
時または分を選ぶ
→ 点滅している時刻が合わせ
られます。

4 [ROTARY] ノブを回して、
時刻を合わせる

5 [ENT] ボタンを押す
→ 時刻が調整されます。

6 [ADJ] ボタンを押す
→ 調整項目を終了します。

アドバイス

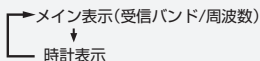
- 点検や修理などでバッテリーを
外したときやリセットボタ
ンを押したときには、もう一
度、時刻合わせをしてくだ
さい。

表示を切り替える

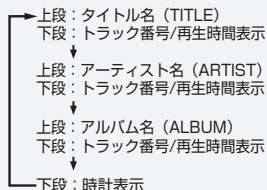
ラジオモード時、CD 再生時、USB
機器、Bluetooth オーディオ再生
時のディスプレイ表示を切り替え
ます。

1 [DISP] ボタンを押して表
示を選ぶ
→ 押すたびに、次のように切り
替わります。

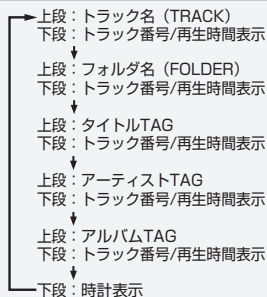
● ラジオモード



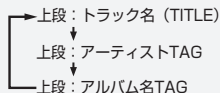
● 音楽 CD、iPod 再生時



● MP3/WMA ディスク、USB 再生時



● Bluetooth オーディオ再生時



アドバイス

- [DISP] ボタンを押し続ける
(約 1 秒間) と、タイトルが 1
回スクロール表示されます。

オーディオの設定をおこなう

オーディオの設定

1 **[SOUND]** ボタンを押して、サウンド設定モードにする

→ 押すたびに以下のようにサウンド設定モードが切り替わります。

サウンド設定モード表示

BASS	: バス(低音)
MID	: ミッド(中音)
TREBLE	: トレブル(高音)
BALANCE	: バランス(左右バランス)
FADER	: フェダー(前後バランス)

2 **[ROTARY]** ノブを回して、設定値を選ぶ

アドバイス

- ・約 7 秒間操作していないときは、調整前の表示に自動的に切り替わります。

音質を調整する(バス / ミッド / トレブル)

低音 / 中音 / 高音をお好みのレベルに調整することができます。

1 「オーディオの設定」の手順で **BASS** または **MID** または **TREBLE** を選ぶ

2 **[ROTARY]** ノブを回して、レベルを調整する

- ・調整範囲は、-7 ~ +7 です。
※ 初期設定は、「0」です。

左右のスピーカー音量バランスを調整する(バランス調整)

左右のスピーカーの音量バランスを調整することができます。

1 「オーディオの設定」の手順で **BAL** を選ぶ

2 **[ROTARY]** ノブを回して、左右のスピーカーの音量バランスを調整する

- ・調整範囲は、RIGHT 12 ~ LEFT 12 です。
※ 初期設定は、「CENTER」です。

オーディオの 設定をおこなう

前後のスピーカー音量バランスを調整する(フェダー調整)

前後のスピーカーの音量バランスを調整することができます。

- 1 「オーディオの設定」の手順で **FAD** を選ぶ
- 2 **[ROTARY]** ノブを回して、前後スピーカーの音量バランスを調整する

・調整範囲は、FRONT 12 ～ REAR 12 です。

※ 初期設定は、「CENTER」です。

ラウドネスを調整する

音量が小さいときにでも聞きやすいように低音 / 高音を強調します。

- 1 「**SOUND**」 ボタンを押し続ける（約 1 秒間）と、**ON OFF** が切り替わります

※ 初期設定は、「OFF」です。

システム設定をおこなう (アジャストモード)

設定項目の選びかた

- 1 **[ADJ]** ボタンを押す
- 2 **[◀◀]**、**[▶▶]** ボタンを押して、設定する項目を選ぶ
→ 押すたびに、アジャストモード表示の通りに設定項目が切り替わります。設定は、各設定項目の設定手順をご覧になり設定してください。

アジャストモード表示

12/24HR : AM・PM表示/24時間表示設定

CLOCK EDIT: 時刻調整

AUX SENS : AUXモードのみ
外部入力感度調整

BEEP : ビープ音設定

SWRC : ステアリングホイール
リモートコントロール
スイッチの設定

FACTORY RESTORE

: 工場出荷状態に戻す

- 3 設定を終えたら **[ADJ]** ボタンを押す

システム設定をおこなう (アジャストモード)

時計を 24 時間表示にする (12/24HR)

時計の表示を AM・PM 表示または、24 時間表示に設定できます。

1 「設定項目の選びかた」の手順で **12/24HR** を選ぶ

2 [ROTARY] ノブを回して設定する

- **12**: AM/PM で表示します。
- **24**: 24 時間で表示します。

※初期設定は、「12」です。

ビーブ音を設定する (BEEP)

ボタン操作時のビーブ音を設定します。

1 「設定項目の選びかた」の手順で **BEEP** を選ぶ

2 [ROTARY] ノブを回して設定する

- **ON**: スピーカーから音がでます。
- **OFF**: スピーカーから音がでません。

※初期設定は、「ON」です。

ポータブルオーディオの入力レベルを設定する (AUX SENS)

本機に接続された市販のポータブルオーディオの入力レベルを設定します。音が割れる / 音が小さいときには、入力レベルを調整してください。

1 「設定項目の選びかた」の手順で **AUX SENS** を選ぶ

2 [ROTARY] ノブを回して設定する

- **LOW**: 入力レベルが高く音割れなどが発生しているとき
- **MID**: 通常レベルのとき
- **HIGH**: 入力レベルが低いとき。

※初期設定は、「MID」です。

ステアリングホイールリモートコントロールを設定する (SWRC)

車両ステアリングに装着されているオーディオ操作スイッチをご使用になる場合、車種によって以下の初期設定を行う必要があります。

本機能は、ステアリングホイールリモートコントロール搭載車で使用できます。お車のステアリングホイールリモートコントロールのスイッチに機能を割り付けることで、運転中でもステアリングから手を離さずにオーディオの操作ができます。

1 「設定項目の選びかた」の手順で **SWRC** を選ぶ

システム設定をおこなう (アジャストモード)

- 2** [ENT] ボタンを押す
→「DON'T TOUCH SWRC KEYS_ _」が約2秒間、表示されますが、この間はこのボタンも触らないでください。

- 3** 割り当てる機能を
[ROTARY] ノブで選ぶ
→例えば、「VOLUME +」は音量増 (ボリュームアップ) に該当します。

- 4** [ENT] ボタンを押す
→「KEEP PRESSING SWRC KEY UNTIL OK_ _」が表示されます。

- 5** 該当する車両側ステアリングホイールリモートコントロールボタンを押す
→ 3～5の操作を繰り返し、必要なステアリングホイールリモートコントロール全てに割り当てます。

■割り当てた機能の設定を解除するには

- 1** 上記3の操作時 CLEAR を
[ROTARY] ノブで選ぶ
2 [ENT] ボタンを押すと「ALL CLR NO」と表示される
→ 戻る場合は、NO を選択したまま [ENT] ボタンを押す。

- 3** 解除して良い場合は [ROTARY] ノブで **YES** を選択し、
[ENT] ボタンを押す
→「CLEAR」と表示されます。

アドバイス

- ・走行中、運転の妨げにならないように十分注意してください。
- ・一部のステアリングホイールリモートコントロール搭載車には、対応しておりません。
- ・別売のステアリングホイールリモートコントロール接続ケーブルが必要です。ご購入店にご相談の上お買い求めください。また、接続は販売店にご依頼ください。詳しくは、巻末の取付説明をご覧ください。

工場出荷状態に戻す (FACTORY RESTORE)

設定を工場出荷状態にします。

- 1** 「設定項目の選びかた」の手順で **FACTORY RESTORE** を選ぶ
2 [ENT] ボタンを押し、
[ROTARY] ノブを回し **YES** を選ぶ
3 [ENT] ボタンを押す
→ 電源が OFF になり工場出荷状態になります。

ラジオを聴く

ラジオを選ぶ

1 [SOURCE 〇] ボタンを押して TUNER を選ぶ

→ 押すたびに、次のようにソースが切り替わります。

TUNER → DISC → USB/IPOD →
BT TEL → AUX → BT AUDIO →

受信バンドを切り替える

受信バンドを切り替えることにより、FM 放送、AM 放送をお楽しみいただけます。

1 [BAND] ボタンを押す

→ 押すたびに、バンドが切り替わります。

FM1 → FM2 → FM3 → AM1 → AM2 →

受信感度を選ぶ (DX/LO)

受信感度を切り替えることにより、音質の良い放送局をお楽しみいただけます。

1 [BAND] ボタンを押し続ける (約 1 秒間)

→ 押すたびに、LO MODE または DX MODE に切り替わります。

- DX MODE：電波の強い放送局・弱い放送局、関係なく受信します。

- LO MODE：電波の強い放送局のみ受信します。より良い音質の放送局をお楽しみいただけます。

※ 初期設定は、「DX MODE」です。

自動選局する(シーク選局)

放送局を自動的に選局できます。

1 [◀◀], [▶▶] ボタンを押し続ける (約 1 秒間)

→ 放送のあるところで、自動的に選局が止まります。

手動選局する (マニュアル選局)

1 [◀◀], [▶▶] ボタンを押す

アドバイス

- そのまま押し続けると、自動選局になります。

プリセット選局する

プリセット選局について…

あらかじめメモリーしてある放送局を選局する機能です。

1 [PRESET] (1 ~ 6) ボタンを押して、聴きたい放送局を選ぶ

→ディスプレイに受信周波数とプリセット No. を表示します。

アドバイス

- [PRESET] ボタンを押し続ける (約 2 秒間) とプリセットメモリーとなり、受信中の放送局がメモリーされてしまいます。

プリセットメモリーの登録 (手動)

手動プリセットメモリーについて…
プリセットメモリーを手動で登録します。

登録できるプリセットメモリーは、FM1、FM2、FM3、AM1、AM2 各 6 局、合計で 30 局です。

1 [BAND] ボタンを押して、メモリーしたい受信バンドを選ぶ

2 [◀◀]、[▶▶] ボタンを押して、メモリーしたい放送局を選ぶ

3 メモリーさせたい [PRESET] (1 ~ 6) ボタンを押し続ける (約 2 秒間)

→ 押した [PRESET] (1 ~ 6) ボタンに登録されます。

プリセットメモリーの登録 (自動: オートストア機能)

オートストア機能について…

受信感度の良い放送局を自動的にプリセットメモリーへ登録をします。

1 [BAND] ボタンを押して、メモリーしたい受信バンドを選ぶ

→ 自動メモリーは、受信バンド別に登録しますので、それぞれ登録してください。(FM 時は FM3 へ 6 局、AM 時は AM2 に 6 局、合計 12 局が登録されます。)

2 [PS/AS] ボタンを押し続ける (約 2 秒間)

→ ディスプレイに自動メモリー動作中のプリセット No. を表示します。

- 自動的に、受信感度の良い放送局が [PRESET] (1 ~ 6) ボタンに登録されていきます。

アドバイス

- 自動メモリーをすると、これまで登録されていた放送局は消去されます。
- 登録できる放送局が 6 局に満たない場合は、低い周波数に戻って、登録をします。また、自動メモリーを 2 回繰り返しても 6 局に満たない場合は、それまでの登録内容が残ります。

放送を確かめる (プリセットスキャン)

プリセットスキャンについて…

プリセットスキャンは、ダイレクトボタンにメモリーされている放送局を順に受信します。

1 [PS/AS] ボタンを押す

→ プリセットスキャン動作中のプリセット No. を表示します。

- メモリーしている放送局を、順に約 7 秒間ずつ受信します。また受信できない放送局はとばして、次の放送局を受信します。

注意

- [PS/AS] プレイ / ポーズボタンを押し続ける (約 2 秒間) と、オートストア機能になります。ご注意ください。

→ プリセットスキャンを解除するには…

もう一度、[PS/AS] ボタンを押してください。

MP3/WMA について

● MP3 とは

MPEG 規格のオーディオ・レイヤー 3(MPEG audio layer3) に分類される音声圧縮方式で、パソコンユーザーの間で同方式は標準フォーマットとして浸透しています。

オリジナルの音声データを約 1/10 のデータ量にまで圧縮でき、さらに高音質なのが特長です。1 枚の CD-R/RW ディスクに、CD 約 10 枚分に相当する音楽を収録することで、ディスク交換不要の長時間再生が可能です。

● WMA とは

- 「Windows Media Audio」の略で、マイクロソフトが開発したオーディオファイルのことです。

● DRM(著作権保護)の解除方法について

WMA の DRM (著作権保護) が ON のままのファイルを再生した場合は、音声が出力されません。解除してファイルを作成してください。

※ 作成した WMA ファイルにおいては、個人の責任において実施してください。

● ファイル作成時のご注意

再生可能なサンプリングレート、ビットレートについては「仕様」(44 ページ)をご覧ください。

フォルダ名 / ファイル名

- フォルダ名、ファイル名は半角英数 / 記号で 64 文字以内で作成してください。それ以外で文字を入力した名前は、正しく表示されない場合があります。フォルダ名、ファイル名はディスプレイに表示されます。

ファイル拡張子

- ファイル拡張子には、必ず半角文字で拡張子「.MP3」「.WMA」「.mp3」「.wma」を付けてください。それ以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合には、再生できません。

論理フォーマット(ファイルシステム)

- MP3/WMA ファイルを CD-R/RW に記録する場合、ライティングソフトのフォーマット設定は「ISO9660(レベル 1,2)、Joliet、Romeo」を選択してください。他のフォーマットで記録した場合には正常に再生しない場合があります。
- 同一フォルダ内に、同じファイル名を付けないでください。

TAG 表示について

- MP3/WMA 再生ではフォルダ名、ファイル名、TAG をタイトルとして表示することができます。表示できる文字コードは UTF-8、表示できる文字は半角英数字および一部の記号です。アルファベットは大文字のみの表示で小文字は大文字に変換されます。本機は漢字・ひらがな・カタカナ表示に対応していません。それ以外の文字を入力した名称は、正しく表示しません。表示できない文字のときは、「*」(アスタリスク)に置き換えます。
- MP3 の場合は、ID3-TAG V2.3/V2.2/1.1 に対応しています。TAG 表示は、V2.3/V2.2 を優先します。
- WMA の場合、アルバム TAG は、拡張ヘッダーに書き込まれた情報を表示します。

フォルダ数 / ファイル数

- MP3/WMA (ディスク)
USB 機器
フォルダ数: 最大 255 フォルダ (1 フォルダあたり最大 255 ファイル。
ファイル数: 最大 65025 ファイル

■ ディスクの再生について

- ディスクを入れると、タイトル表示部に「LOADING」を表示して、ディスク内のすべてのフォルダをチェックしたのち、再生がはじまります。チェックをしている間は音が出ません。読み込めないフォルダなど、作成したディスクによっては、チェックする時間がかかる場合があります。
- WMA の DRM (著作権保護) が ON のままのファイルを再生した場合は、音声は出力されません。
- MP3/WMA データ以外のファイルは再生できません。
- 曲の再生はディスクに記録した順番に行われます (パソコン上で表示される順番通りに再生されるとは限りません)。
- 記録時のエンコーダーソフトによっては、若干ノイズが発生する場合があります。
- 読み込めないファイルは、そのファイルは飛ばして、次ファイルを再生します。記録時のエンコーダーソフトによっては、若干ノイズが発生する場合があります。
- 再生できないディスクが挿入された場合は、LOADING 後、「ERROR3」または「ERROR6」と表示されます。
- マルチセッションディスク (音楽 CD の曲と MP3/WMA の曲が混在したディスク) 再生時、正常に再生できない場合もあります。

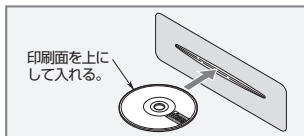
ディスクを入れる

ディスクインプレイ機能について…
本機の電源が入っていない状態からでも、車のエンジンキーが ON または ACC であればディスクを入れると、自動的に電源が入り、再生をはじめます。

注意

- ディスク挿入口に手や指を入れないでください。また、異物を入れないでください。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルなどの糊がはみ出していたり、はがした痕があったりする CD は使用しないでください。そのまま CD プレーヤーに入れると、CD が取り出せなくなり、故障の原因となります。
- ディスクがスムーズに挿入口に入らない場合は、本機に他のディスクが入っているか、修理が必要な場合が考えられます。
- CD-R または CD-RW で記録されたディスクでも使用できない場合があります。

1 ディスク挿入口にディスクを入れる



→ ディスクを入れると、自動的に再生がはじまります。

ディスクを取り出す

バックアップイジェクト機能について…
本機の電源が入っていない状態からでも [▲] ボタンを押すと、ディスクを取り出すことができます。

1 [▲] ボタンを押す

→ ディスクがイジェクトされたら、取り出します。

すでに入っているディスクを聴く

1 [SOURCE 𠃊] ボタンを押して、DISC を選ぶ

→ CD/MP3/WMA モードになると、自動的に再生がはじまります。

再生を止める(一時停止)

1 [▶II] ボタンを押す

→ ディスプレイに (PAUSE) を表示し一時停止します。

2 続けて再生を聴きたいときには、もう一度 [▶II] ボタンを押す

曲を選ぶ

- 1** 次の曲を聴くときは、[▶▶I] ボタンを押す
前の曲を聴くときは、[I◀◀] ボタンを2回押す

アドバイス

- [▶▶I] ボタンを押すと、次の曲が再生されます。また押した回数だけ先の曲が再生されます。
- [I◀◀] ボタンを押すと、再生中の曲を最初から再生します。さらに押すと、押した回数だけ前の曲が再生されます。
- 曲の頭部分を再生しているときに [I◀◀] ボタンを2回押すと、2曲前の曲へ戻ることができます。

早送り / 早戻しする

- 1** 早送りするときは、[▶▶I] ボタンを押し続ける
早戻しするときは、[I◀◀] ボタンを押し続ける

アドバイス

- MP3/WMA ディスクの場合は、開始および曲間で多少時間がかかります。また、再生時間表示に誤差が生じる場合があります。

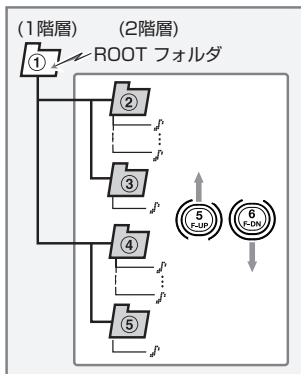
フォルダを切り替える
(フォルダ選択モード)

フォルダ選択モードについて…

MP3/WMA ディスク再生時にフォルダを選択して、そのフォルダ内の最初の曲から再生します。

- 1** [F-DN], [F-UP] ボタンを押す

→ [F-DN] を押したときは前のフォルダに、[F-UP] を押したときは次のフォルダに移ります。



- 2** 曲を選ぶには [I◀◀], [▶▶I] ボタンを押す

いろいろな再生 (スキャン / リピート / ランダム演奏)

アドバイス

- ・リピート / ランダム演奏は電源を OFF にした場合でも保持されます。
- ・スキャンは保持されません。

■最初の曲を聴く

DISC の最初の曲を再生することができます。MP3/WMA ディスクの場合は、再生中のフォルダーの最初の曲が再生されます。

1 [BAND] ボタンを押す

■聴きたい曲を探す (スキャン演奏)

音楽 CD または MP3/WMA ディスク 1 フォルダ内に収録されている全曲を 10 秒間ずつ再生します。

1 [SCN] ボタンを押す

→ ディスプレイに、「TRACK SCAN」を 2 秒間表示、SCN インジケーターが点灯し、演奏をします。

アドバイス

- ・スキャン演奏は、再生している曲の次の曲からはじまります。

■聴きたい曲を探す (フォルダースキャン演奏)

MP3/WMA ディスクのフォルダ内に収録されている最初の 1 曲を 10 秒間ずつ再生します。

1 [SCN] ボタンを押し続ける (約 1 秒間)

→ ディスプレイに、「FOLDER SCAN」を 2 秒間表示、ALL と SCN インジケーターが点灯し、演奏をします。

■曲を繰り返し聴く (トラックリピート演奏)

再生中の曲を繰り返し再生します。

1 [RPT] ボタンを押す

→ ディスプレイに、「TRACK REPEAT」を 2 秒間表示、RPT インジケーターが点灯し、リピート演奏をします。

■フォルダ内の曲を繰り返し聴く (オールリピート演奏)

再生中の MP3/WMA フォルダ内の曲を繰り返し再生します。

1 [RPT] ボタンを押し続ける (約 1 秒間)

→ ディスプレイに、「FOLDER REPEAT」を 2 秒間表示、ALL と RPT インジケーターが点灯し、オールリピート演奏をします。

■フォルダ内の曲をランダムに聴く（フォルダランダム演奏）

再生中の音楽 CD または、MP3/WMA フォルダ内の曲を順不同に再生します。

1 [RDM] ボタンを押す

→ ディスプレイに「TRACK
RANDOM」を 2 秒間表示、
RDM インジケータが点灯
し、フォルダランダム演奏を
します。

■全フォルダの曲をランダムに聴く（オールランダム演奏）

MP3/WMA ディスク全フォルダ内の曲を順不同に再生します。

1 [RDM] ボタンを押し続ける （約 1 秒間）

→ ディスプレイに「FOLDER
RANDOM」を 2 秒間表示、
ALL と **RDM** インジケータ
が点灯し、オールランダム演
奏をします。

■通常の演奏に戻すには…

1 もう一度、同じボタンを押す

→それぞれのインジケータ
が消灯し、演奏している曲か
ら通常の演奏になります。

USB 機器のオーディオファイルを聴く

< USB 機器の操作について >

この章は、USB 機器を本機に接続したときの操作について説明しています。

次の操作は CD/MP3/WMA と同様の操作です。

- ・ 曲を選ぶ
- ・ 早送り / 早戻し (DRM ファイルを除く)
- ・ 一時停止・フォルダ選択
- ・ スキャン / リピート / ランダム演奏

「CD/MP3/WMA を聴く」(20～25 ページ) をご覧ください。

USB 機器について

- ・ 本機で再生できるオーディオファイルは、MP3/WMA ファイルです。詳しくは「MP3/WMA について」(20 ページ) をご覧ください。
- ・ 本機の USB スロットに接続をして再生できる USB 機器は、「USB マスストレージクラス」として認識されることが条件となり、すべての USB 機器の動作を保証するものではありません。
- ※ 「USB マスストレージクラス」に準拠したデバイスは、特殊なドライバやアプリケーションソフトを使用することなく接続するだけで使用できます。
- ・ 使用する USB 機器が「USB マスストレージクラス」に準拠しているかは、USB 機器の販売メーカーにお問い合わせください。
- ・ USB 機器を本体に挿入すると突起物となり、運転中に何らかの危険を及ぼす場合があります。かならず別売の延長 USB ケーブル(CCA-755-500) をご使用ください。
- ・ 記録されているデータを消失してしまったときのために、貴重なデータは必ずパソコンなどにバックアップをとっておくことをお勧めします。
- ・ 本機はパソコンとの接続には対応していません。また、USB ハブを介して接続することもできません。
- ・ 2 つ以上のドライブで構成されている USB 機器は、どちらか一方のドライブのみを認識します。
- ・ セキュリティー機能の付いた USB 機器は再生できません。
- ・ 接続する USB 機器によっては曲順などが変わってしまう場合があります (パソコン上で表示される順番通りに再生されるとは限りません)。
- ・ USB 再生中、フォルダ UP/DOWN を連続して操作すると、演奏時間表示が[00:00]のまま、音が出ません。

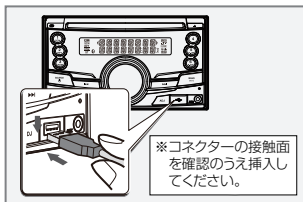
USB 機器を接続する



警告

- USB コネクタ部に異物を入れないでください。
- エンジンをかける前に接続しないでください。USB 機器がこわれることがあります。

1 USB スロットカバーを開ける



2 USB スロットに USB 延長ケーブルを接続する

3 USB 延長ケーブルに USB 機器を接続する

→ 挿入すると、USB 機器に保存されている最初のファイルから再生をはじめます。

アドバイス

- USB 機器を認識しない場合は、[SOURCE 𠂉] ボタンを押してソースを切り替えてください。

- USB 機器はコネクタの奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが不完全ですと、USB 機器を認識しない場合があります。
- 収録されている曲数によっては読み込みまでに時間がかかる場合があります。

USB 機器のオーディオファイルを聴く

1 [SOURCE 𠂉] ボタンを押して、ソースを切り替え、USB/iPod を選ぶ

→ 押すたびに次のように切り替わります。USB/iPod モードになると前回停止したところからはじまります。(DRM ファイルを除く)



- USB 機器を取り外し、再度接続したときは、USB 機器に保存されている最初のファイルから再生をはじめます。

再生の終了と USB 機器の取り外し

1 [SOURCE 〇] ボタンを押して、USB 以外のソースに切り替える

→ USB 機器へのアクセスが停止します。

注意

- USB モード中に USB 機器を抜き取らないでください。USB 機器のデータが破損する場合があります。
- 貴重なデータは必ずパソコンなどにバックアップデータを保存しておいてください。

2 USB スロットから延長ケーブルを取り外す

3 USB スロットのカバーを閉じる

アドバイス

- 再生終了後は USB スロットのカバーを閉じて、ほこりなどの侵入による接続端子の損傷を防止してください。
- USB 機器を車内に放置しないでください。直射日光や高温などの影響により、USB 機器が変形したり故障する場合があります。

< iPod について >

この章は iPod が USB スロット経由で本機に接続したときの操作について説明しています。

- iPod および iPhone に関する操作方法を本紙では、iPod と総称して表現しております。
- 本機と接続可能な iPod/iPhone に関しては、お買い求めの販売店にお問い合わせいただくか、弊社 Web サイト www.clarion.com 内の「アフターサポート→他機器との接続確認情報」での本機「CX315」をご参照ください。

次の操作は CD と同様の操作です。

- 曲を選ぶ・早送り / 早戻し
- 一時停止
- リピート / ランダム演奏

「CD/MP3/WMA を聴く」(20 ~ 25 ページ) をご覧ください。

iPod で再生していた“シャッフル演奏”は次のように設定されます。

- シャッフル (アルバム) → ランダム演奏

iPod を接続する

1 iPod を接続する

「USB 機器を接続する」(27 ページ)と同じ手順で、iPod を接続します。

アドバイス

- iPod/iPhone を本機と接続する場合、iPod/iPhone に付属している接続ケーブルをご利用ください。

iPod を選ぶ

1 [SOURCE] ボタンを押して、ソースを切り替え、USB/iPod を選ぶ

→ 押すたびに、次のように切り替わります。USB/iPod モードになると、iPod で再生していた最後のファイルから再生をはじめます。

TUNER → DISC → USB/IPOD
← BT TEL ← AUX ← BT AUDIO →

- iPod や iPhone でビデオを再生していた場合、ビデオファイルの音声のみが再生されます。

いろいろな再生 (リピート演奏 / ランダム演奏)

アドバイス

- メニューモード中もリピートの操作はできますが、メニューモードは解除されます。
- iPod で、設定したランダム / リピート機能は、iPod 着脱後もその機能を保持します。

■ 曲を繰り返し聴く (リピート演奏)

1 [RPT] ボタンを押す

→ ディスプレイに「REPEAT SONG」を2秒間表示、RPT インジケーターが点灯し、演奏をします。

■ フォルダ内の曲を繰り返し聴く (オールリピート演奏)

再生中のフォルダ内の曲を繰り返し再生します。

1 [RPT] ボタンを押し続ける (約 1 秒間)

→ ディスプレイに「REPEAT ALL」を2秒間表示、ALL と RPT インジケーターが点灯し、オールリピート演奏をします。

iPod を操作する

■曲をランダムに聴く (ランダム演奏)

フォルダ内の曲を順不同に再生します。この演奏は iPod の“シャッフル (ソング)”演奏と同じです。

1 [RDM] ボタンを押す

→ ディスプレイに「SHUFFLE ON」を2秒間表示、RDM インジケータが点灯し、演奏をします。

■通常の演奏に戻すには…

1 もう一度、同じボタンを押す

→ それぞれのインジケータが消灯し、演奏している曲から通常の演奏になります。

アドバイス

- ・選択されたカテゴリー内で全曲再生後、リピートモードをキャンセルした場合は、その選択されたカテゴリー内の最初の曲から再生をはじめます。
- ・ランダム演奏時にイグニッションスイッチを切り、すぐに入れ直した場合、今まで再生していた曲以外の曲から再生がはじまります。

iPod メニューモードで ミュージックを聴く

1 [MENU] ボタンを押す

→ iPod メニューモードになります。

2 [ROTARY] ノブを回して、 カテゴリー表示を切り替える



アドバイス

- ・[MENU] ボタンを押すとひとつ前のメニューにもどります。

3 [ENT] ボタンを押して、カ テゴリーを選ぶ

4 それぞれのカテゴリーから再 生したい曲まで [ROTARY] ノブを回してさがす

5 再生したい曲が表示された ら、[ENT] ボタンを押す

→ 選んだ曲から再生をはじめ、iPod メニューモードが解除されます。

タイトル表示について

本機は iPod から送られてくるタイトル情報の表示が可能です。

- ・文字コードは UTF-8、表示できる文字は半角英数字・および一部の記号です。
- ・アルファベットは大文字のみの表示で小文字は大文字に変換されます。
- ・本機は漢字・ひらがな・カタカナ表示に対応しておりません。
- ・表示できない文字のときは、“*” (アスタリスク) で置き換えます。

Bluetooth をつかう

Bluetooth 対応機器を利用する

携帯電話などの Bluetooth 対応機器を登録して、本機から電話の発着信やオーディオを再生できます。Bluetooth 対応携帯電話を用いるとケーブルを接続することなく、Bluetooth を利用したハンズフリー機能を使用できます。接続可能な携帯電話の情報についてはお買い求めの販売店にお問い合わせいただくか、弊社 Web サイト www.clarion.com 内の「アフターサポート→他機器との接続確認情報」での本機「CX315」をご参照ください。

Bluetooth (ブルートゥース) とは

Bluetooth とは、産業団体 Bluetooth SIG により提唱されている携帯情報機器向けの短距離無線通信技術です。2.4GHz 帯の電波を利用して Bluetooth 対応機器どうして通信を行います。本機では、Bluetooth に対応した携帯電話およびオーディオ機器を接続して利用できます。

Bluetooth の各機能を使用するには、下記プロファイルに対応した携帯電話が必要となります。

ハンズフリー通話

HFP (Hands-Free Profile)

オーディオ

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile)

Bluetooth プロファイルに対応している機器であっても、相手機器の特性や仕様によっては接続できなかったり、表示や動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

Bluetooth 機器の取り扱いについて

Bluetooth 機器を使用される前にお読みください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機能を使用する前に、近くで移動体識別用構内無線局および、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を移動するか、または電波の発射を停止し、電波干渉を避けてください。

Bluetooth をつかう

3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

2.4GHz帯を使用する無線機器です。



全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域は回避不可です。

Bluetooth 対応機器を登録する (ペアリング)

はじめて Bluetooth 対応機器を利用するときは、本機に登録 (ペアリング) する必要があります。

アドバイス

- あらかじめ機器側でも Bluetooth 機能を ON に設定しないと、ペアリングできない場合があります。詳しくは Bluetooth 対応機器の取扱説明書をご覧ください。

1 [SOURCE 〇] ボタンを押して、ソースを切り替え、BT TEL を選ぶ

→ 押すたびに次のように切り替わります。

TUNER → DISC → USB/IPOD
← BT TEL ← AUX ← BT AUDIO →

2 Bluetooth 対応機器の Bluetooth を起動する

→ Bluetooth 対応機器の取扱説明書をご覧ください。

3 [◀◀], [▶▶] ボタンを押して、(ADD DEV) を選び、[ENT] ボタンを押す

→ ディスプレイに「WAITING」と表示して、インジケーターが点滅します。

4 Bluetooth 対応機器で CX-BT を選択する

→ 6ケタのコードが Bluetooth 対応機器と本機の表示が同一かを確認し、ペアリングします。

→ ペアリングが完了すると  インジケーターが点灯します。

アドバイス

- Bluetooth 対応機器の機種によっては、Bluetooth 対応機器で本機を検索してペアリングすることがあります。パスキーの入力が要求されたら「0000」を入力してペアリングしてください。
- Bluetooth 対応機器側の操作について詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。
- 電話帳転送には、対応しておりません。
- Bluetooth 対応機器は本機に5台まで登録できます。

Bluetooth 機能を設定する

1 [SOURCE 〇] ボタンを押して、ソースを切り替え、BT TEL を選ぶ

→ 押すたびに次のように切り替わります。

TUNER → DISC → USB/IPOD →
BT TEL → AUX → BT AUDIO →

2 [◀▶], [▶▶] ボタンを押して、各項目を選び、[ENT] ボタンを押す

Bluetooth設定モード表示

CONNECT

VOICE DL: 「声で電話をかける
(VOICE DL)」(35ページ)

REDIAL: 「最後にダイヤルした番号に
電話をかける(REDIAL)」(36ページ)

AUTO ANSWER: 「自動応答する
(AUTO ANSWER)」(35ページ)

MIC SELECT: 「マイクを選択する
(MIC SELECT)」(36ページ)

ADD DEV: 「Bluetooth対応機器を
登録する(ペアリング)」(32ページ)

DELETE DEVICE

DISCONN

BT RESET

■ Bluetooth 対応機器の再接続する (CONNECT)

Bluetooth 機器は、通常はペアリングの後、自動的に本機に接続され

ます。

ただし、機器によっては、ペアリングの後、本機に自動的に接続されない場合があります。この場合は、手で本機に機器を接続してください。

1 Bluetooth 対応機器の Bluetooth を起動する

2 「Bluetooth 機能を設定する」の手順 2 から **CONNECT** を選び、[ENT] ボタンを押す

→ Bluetooth 対応機器が再度ペアリングします。

→ ペアリングが完了するとBluetoothインジケータが点灯します。

3 [BAND/MENU] ボタンを押すと元のモードに戻ります

アドバイス

- ・ペアリングができないときは、「Bluetooth 対応機器を登録する (ペアリング)」(32 ページ) を参照して再接続してください。

■ Bluetooth 対応機器を削除する (DELETE DEVICE)

ペアリングした Bluetooth 対応機器を削除します。

1 「Bluetooth機能を設定する」の手順 2 から **DELETE DEVICE** を選び、[ENT] ボタンを押す

Bluetooth をつかう

2 [ROTARY] ノブを回し、削除するデバイスを選択する機器を選ぶ

3 [ENT] ボタンを押す
→ 選択した機器が削除されます。

4 [BAND] ボタンを押すと元のモードに戻ります

アドバイス

- すべての機器を削除するとき、手順 2 で ALL を選びます。

Bluetooth 機能をリセットする (BT RESET)

Bluetooth 機能をリセットします。

1 「Bluetooth 機能を設定する」の手順 2 から **BT RESET** を選び、[ENT] ボタンを押す

2 [ROTARY] ノブを回し、**YES** を選ぶ
→ NO を選ぶと前に戻ります。

3 [ENT] ボタンを押す
→ 機能がリセットされます。

4 [BAND] ボタンを押すと元のモードに戻ります

Bluetooth 対応機器の接続を解除する (DISCONN)

Bluetooth 対応機器の接続を解除します。

1 「Bluetooth 機能を設定する」の手順 2 から **DISCONN** を選び、[ENT] ボタンを押す

2 [ROTARY] ノブを回し、**YES** を選ぶ
→ NO を選ぶと解除しません。

3 [ENT] ボタンを押す
→ 接続を解除します。

4 [BAND] ボタンを押すと元のモードに戻ります

アドバイス

- 再度接続するには、「Bluetooth 対応機器の再接続する (CONNECT)」(33 ページ)を行います。
- 最後に接続されていた Bluetooth 対応機器以外で、既に本機に登録済み機器を再接続させる場合は、同 Bluetooth 対応機器から **CX-BT** を選択してください。

携帯電話を利用する

注意

- 携帯電話を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

電話の着信

カーステレオをご使用中は、本機は待ち受け状態となります。着信時には、カーステレオの音量が自動的にミュートされ、呼出音が車載スピーカーから再生されます。

カーステレオは一時的に電話割り込みモードに切り換わり、電話番号が本機に表示されます。

着信音および通話音声は、フロントスピーカーから再生されます。

アドバイス

- 携帯電話の機種によっては、通話中に別の着信があった場合は、自動的に着信を拒否します。
- 通話中に車が携帯電話のサービス圏外（電波が届かないところ）に移動したときは回線が切れます。
- ハンズフリーで通話中は、オーディオソースの選択切り替えができません。
- 携帯電話が待ち受け状態でないと、発着信できない場合があります。

注意

- 走行中に電話を受けるときは、必ず周りの安全を十分に確認してください。

電話を受ける

- 1 電話着信中に [**LC** / **ENT**] ボタンを押す

→ 通話中になり、ディスプレイに通話時間を表示します。

- 2 通話を終了するときには、[**△** / **SOUND**] ボタンを押す
→ 通話が終了します。

着信を拒否する

- 1 電話着信中に [**△** / **SOUND**] ボタンを押す
→ 通話が拒否されます。

自動応答する (AUTO ANSWER)

着信時に、自動で応答できるように設定できます。

- 1 「Bluetooth 機能を設定する」(33 ページ) の手順 2 から **AUTO ANSWER** を選び、[**ENT**] ボタンを押す
- 2 [**ROTARY**] ノブを回し、**ON** を選ぶ
→ **OFF** を選ぶと手動応答になります。
- 3 [**BAND**] ボタンを押すと元のモードに戻ります

電話をかける

声で電話をかける (VOICE DL)

- 1 「Bluetooth 機能を設定する」(33 ページ) の手順 2 から **VOICE DL** を選び、[**ENT**] ボタンを押す

Bluetooth をつかう

- 2** 内蔵 / 外部マイクに向かって、連絡先名を明瞭に発声し、ボイスダイヤルを実行する

アドバイス

- この機能は携帯電話機により異なります。お使いの携帯電話機がボイスダイヤルに対応していなければ、この機能を使用できません。この機能のサポートについては、携帯電話機の取扱説明書をご覧ください。サポートされていない場合、または発信できなかった場合、「CALL END」が表示されます。
- 音声为正しく受信されるように、必要に応じて外部マイクを使用してください。

■最後にダイヤルした番号に電話をかける (REDIAL)

- 1** 「Bluetooth 機能を設定する」(33 ページ) の手順 2 から **REDIAL** を選び、**[ENT]** ボタンを押す

→ 電話をかけます。

- 2** 通話を終了するときは、**[⇐ / SOUND]** ボタンを押す

→ 通話が終了します。

■マイクを選択する (MIC SELECT)

ハンズフリー時に使用するマイクを

内蔵マイク / 外部マイクを使用するか選択します。

- 1** 「Bluetooth 機能を設定する」(33 ページ) の手順 2 から **MIC SELECT** を選び、**[ENT]** ボタンを押す

- 2** **[ROTARY]** ノブを回し、項目を選ぶ

- **INTERNAL** : 内蔵マイクを使用する。
- **EXTERNAL** : 外部マイク (別売) を使用する。

- 3** **[BAND]** ボタンを押すと元のモードに戻ります

Bluetooth オーディオを聴く

< Bluetooth オーディオの操作について >

この章は、Bluetooth オーディオ 機器を本機に接続したときの操作について説明しています。

次の操作は CD/MP3/WMA と同様の操作です。

- ・ 曲を選ぶ
- ・ 早送り / 早戻し
- ・ 一時停止

「CD/MP3/WMA を聴く」(20 ~ 25 ページ) をご覧ください。

Bluetooth オーディオをペアリングする

1 Bluetooth オーディオをペアリングする

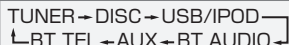
「Bluetooth 対応機器を登録する (ペアリング)」(32 ページ)と同じ手順でペアリングします。

- Bluetooth 方式に対応しているオーディオ機器を使用してください。ただし、Bluetooth オーディオ機器の種類によっては、ご利用にならない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。
- Bluetooth オーディオ機器の収納場所、距離によっては、接続できない場合や音飛びが発生する場合があります。できるだけ通信状態の良い場所に置くことをおすすめします。
- Bluetooth オーディオ機器について詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth オーディオのオーディオファイルを聴く

1 [SOURCE 0] ボタンを押して、ソースを切り替え、BT AUDIO を選ぶ

→ 押すたびに次のように切り替わります。



BT オーディオモードの自動切り替えをする

Bluetooth オーディオモード時に、機器が接続されている場合、本機が自動的に Bluetooth オーディオモードに切り替えるかどうかを選択できます。

Bluetooth オーディオモード中に [BAND] ボタンを押すたびに、切り替えることができます。

AUTO-SW ON :

デバイスが接続されているか、デバイス内の音楽プレーヤーを再生しているときに自動的に Bluetooth オーディオモードに切り替わりません。

AUTO-SW OFF :

自動的に Bluetooth オーディオモードに切り替えません。

アドバイス

- AUTO-SW ON になっている場合でも、Bluetooth 機器によっては、オンできないことがあります。

ポータブルオーディオ (AUX)

AUX を選ぶ

本機に市販のポータブルオーディオなどを接続して、音楽ソースを聴くことができます。

1 ポータブルオーディオを接続した時は **[SOURCE 〇]** ボタンを押してソースを切り替え、**AUX** を選ぶ

→ 押すたびに次のように切り替わります。AUX モードになると接続されたポータブルオーディオのプレイ操作で、再生されます。

TUNER → DISC → USB/IPOD →
BT TEL → AUX → BT AUDIO →

AUX 入力への接続のしかた

市販の 3.5mm ステレオミニプラグコードを使用して、ポータブルオーディオを本機正面パネルの **[AUX 入力端子]** へ接続してください。

アドバイス

- 接続されたポータブル機器の入力レベルを調整するときは、「ポータブルオーディオの入力レベルを設定する (AUX SENS)」(16 ページ) の手順をご覧ください。

注意

- プラグを接続している状態で、プラグに無理な力を加えないでください。また、ポータブルオーディオを使用しないときには、プラグを抜いてください。

故障かな？と思ったら

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

	現 象	原 因	処 置
共 通	電源が入らない (音が出ない)	ヒューズが切れている	入っていたのと同じ容量のヒューズと交換してください。 再度切れる場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。
		配線が不完全	お買い上げの販売店にご相談ください。
		リモートオンコードが、金属部に接触してショートしている	本機の電源を切り、リモートオンコードのショートしている箇所を絶縁テープなどで、ショートしないように保護してください。
	ボタンを押しても動作しない、またはディスプレイが正確に表示されない	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している	リセットボタンを、細い棒などで約2秒間押してください。 ディスクが入っている状態でリセットボタンを押した場合は、再生する前に一度ディスクを取り出して再挿入してください。 リセットボタンを押したときは、設定したプリセットメモリーなどがすべて消えますので、もう一度設定し直してください。
ラ ジ オ	音が出なくなった	スピーカー保護回路が動作している	音量をもう少し絞ってお聴きください。 電源を再投入することで、音声出力は復帰します。再度、短時間で音が出なくなる場合はお買い上げの販売店にご相談ください。
	雑音が多い	放送局の周波数に合っていない	正しい周波数に合わせてください。
	自動選局で選局できない	強い電波の放送局がない	「 DX 」モードにするか、手動選局モードで選局してください。 ※「 DX 」モードの設定は18ページを参照してください。

故障かな？と思ったら

	現 象	原 因	処 置
C D / M P 3 / W M A	音が出ない	ディスクを裏表逆に入れている	ディスクの印刷面を上にして入れてください。
		ディスクにMP3/WMAファイルがない	ディスクにMP3/WMAファイルを正しく書き込んでください。
		ファイルがMP3/WMAファイルではない	正しくエンコードされたMP3/WMAファイルをご使用ください。
		ファイル形式または、ファイル名が正しくない	ISO9660レベル1、2、Joliet、Romeoでファイルを作成してください。
	音飛びする ノイズなどが入る	ディスクが汚れている	ディスクをやわらかい布でふいてください。
		MP3/WMAファイルが正しくエンコードされていない	正しくエンコードされたMP3/WMAファイルをご使用ください。
		録音時のサンプリング周波数が低い	サンプリング周波数の設定を上げて録音し直してください。
		ディスクに大きい傷やソリがある	ディスクを無傷なものに交換してください。
	電源を入れた直後音質が悪い	湿気の多いところに駐車すると、内部のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして1時間乾燥させてください。
	ファイル名が違う	ファイルシステムが正しくない	ISO9660レベル1、2、Joliet、Romeoでファイルを作成してください。
その他	ディスプレイに「エラー表示」が出る	自己診断機能がはたらき、障害が発生したことを知らせている	次の「エラー表示について」を参照して、内容を確認してください。
U S B / i P o d	音が出ない	接続機器にMP3/WMAファイルがない	接続機器にMP3/WMAファイルを正しく書き込んでください。
		ファイルがMP3/WMAファイルではない	正しくエンコードされたMP3/WMAファイルをご使用ください。
	音飛びする ノイズなどが入る	MP3/WMAファイルが正しくエンコードされていない	正しくエンコードされたMP3/WMAファイルをご使用ください。
	USB機器が認識されない	USB機器が破損している	USBコネクタを抜き差ししてください。それでも認識しない場合には、新しいUSB機器と交換してください。
		USBコネクタの接続が悪い	
		動作状況により、本機とUSB機器やiPod、携帯オーディオが認識されない場合がございます。	
	USB機器が挿入できない	USBコネクタの挿入方向が間違っている	USBコネクタの向きを変えて挿入してください。
		USB機器のコネクタが破損している	新しいUSB機器と交換してください。

故障かな？と思ったら

	現 象	原 因	処 置
携 帯 電 話	ペアリング後、本機から電話を送受信できない	Bluetooth接続がまだ確立されていない 通常、ペアリング後に接続が確立されるまで数秒を要する電話によっては、ペアリング後、自動的に接続しないものがある	お使いの電話を手動で接続するか、電話モードに切り換えて自動接続をONにしてください（本機が再接続を開始します）。 本機の電源を入れ直し、もう一度ペアリングを実行してください。必ず、機器と本機の両方のペアリング情報が削除されてから、新しいペアリング操作を開始してください。
		本機が他の機器に接続されている	別の機器を取り外し、使用する機器を接続してください。
	電話を使って本機に再接続できない	機器のペアリング情報が本機から削除されている可能性がある	本機の機器リストに機器が表示されているか確認し、再度ペアリングをしてください。
	発信者の声がひずむ、または途切れる	音声が大きすぎ（車内の環境、スピーカー、マイクによる）、半二重モードが自動的に起動している	電話の音量を下げてください。
	発信者から音質が悪いと言われる		内蔵マイクではなく外部マイクを使用してください。外部マイクを口元に近づけてください。電話の音量を下げてください。
	Bluetoothオーディオ機器など別のBluetooth機能を使用中、ペアリングや電話との接続に問題が発生する	低帯域幅リンクでの過剰なBluetooth動作 ペアリングや接続が困難になる場合がある	すべての機器を取り外してください。最初に電話とのペアリングを行い、次にA2DP機器を接続してください
	着信を受けても音が出ない	呼出音が聞こえる前に着信を受けている 一部の電話では、音声が正しく本機に転送されない場合がある	通話中の場合は、電話を使って音声を電話に戻してください。次回は呼出音が聞こえてから、着信を受けてください。問題が解消されない場合、次の着信の前に、電話を再接続するか、新しいペアリングを作成してください。
	会話中に音が聞こえなくなる	Bluetooth接続リンクが切断されている	電話をいったん取り外して再接続してください。問題が解消されない場合、電話と本機の両方で新しいペアリングを作成してください。

故障かな？と思ったら

	現 象	原 因	処 置
B l u e t o o t h オ ー デ ィ オ	電話割り込み後、Bluetoothオーディオが切断される	同じ機器（携帯電話機）のBluetoothオーディオと電話機能が動作している場合に起こるBluetoothオーディオ機器は機器/電話機に大きく依存するため、割り込み後に再開されない場合がある	電話割り込み後、電話のA2DP/AVRCP（オーディオストリーミングプロファイル）を再接続してください。
	Bluetoothオーディオ機器をリモートコントロールできない	AVRCPが接続されていない	機器を取り外してから、再接続してください。問題が解消しない場合、機器と本機のペアリング情報を削除してから、もう一度ペアリングを実行してください。
	接続された電話機の使用時に、Bluetoothオーディオが途切れる	低帯域幅リンクでの過剰なBluetooth動作 一部の電話機は処理できない	お使いの電話機にこの問題が発生している場合、Bluetoothオーディオの実行中は電話の数字キーを操作しないでください。電話を操作する前に、Bluetoothオーディオが一時停止することがあります。
	ディスプレイに「BT AUDIO...」と表示されるが音が出ない	AVRCPに対応していないBluetoothオーディオ機器があるため、再生/一時停止が同期されない	機器と本機がいずれも再生状態を確認してください。必要に応じて機器の状態を変更してください。それでも問題が解消されない場合、本機または機器の電源を入れ直してください。
		機器間の接続リンクが壊れている可能性がある	機器と本機のペアリング情報を削除し、もう一度ペアリングを実行してください。

エラー表示について

本機は、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。障害が発生したときは、各種のエラーが表示されますので、対処方法にしたがって障害を取り除いてください。障害を取り除けば、通常の動作に戻ります。

	エラー表示	原因	対処方法
CD/MP3/WMA	ERROR 2	本機にディスクが引っかかって、イジェクトされないとき	本機のメカニズムの故障と恐れられます。お買い上げの販売店にご相談ください。
	ERROR 3	ディスクに傷などがあり、再生できないとき	傷やソリのないディスクと交換してください。
	ERROR 6	ディスクを裏返しに入れ、再生できないとき	ディスクをイジェクトし、正しく入れ直してください。
USB	ERROR 2	USB機器が認識されない	USB機器を取り外して、もう一度接続してください。
	NO FILE	MP3/WMAファイルが保存されていないとき	そのデバイスにMP3/WMAファイルを保存してください。
	OVER CURRENT	過電流検出	USBメモリーを取り外して、もう一度接続してください。 USBメモリーが認識されていない場合、別のUSBメモリーを試してみてください。
Bluetooth	CONNECT ERROR	Bluetooth通信の低レベルの例外	電話機の再接続が必要になる場合があります。A2DPストリーム/HFPを再接続する必要があります。
	CALLFAIL	発信に失敗する	必要に応じて、数回発信してみるか、電話機からダイヤルしてください。
		電話機でボイスダイヤル機能がサポートされていない。 電話機がボイスダイヤル機能を起動できない	お使いの電話機がこの機能をサポートしているか確認してください。

上記以外のエラーが表示されたときは、本体の電源を切り、お買い上げの販売店にご相談ください。

仕 様

■CD プレーヤー部

周波数特性	: 17Hz ~ 20kHz $\pm$ 3dB
SN 比	: 75dB (1kHz)
高調波ひずみ率	: 0.3%

■FM チューナー部

受信周波数	: 76.0MHz ~ 99.0MHz
実用感度	: 10dB μ V
周波数特性	: 100Hz ~ 7kHz $\pm$ 3dB
分離度	: 20dB (1kHz)

■AM チューナー部

受信周波数	: 522kHz ~ 1,629kHz
実用感度	: 32dB μ V

■USB 部

最大転送レート 12Mbps で USB 1.1/2.0 互換

フォルダ構造 : 8 階層

フォルダ数 : 最大 255 フォルダ
(1 フォルダあたり最大 255 ファイル)

ファイル数 : 最大 65025 ファイル

ファイル名 : 64byte
(1 byte 文字で 64 文字)

フォルダ名 : 最大 64
(1 byte 文字で 64 文字)

[MP3]

MP3 デコード	: MPEG-1、2、2.5 オーディオレイヤー 3 準拠
サンプリングレート (kHz)	: MPEG-1 : 32、44.1、48 MPEG-2 : 16、22.05、24 MPEG-2.5 : 8、12
ビットレート (kbps/VBR)	: MPEG-1 : 32 ~ 256、 320 MPEG-2 : 32 ~ 256、 320 MPEG-2.5 : 32 ~ 256、 320

[WMA]

サンプリングレート (kHz)	: 8、16、22.05、32、44.1、48
ビットレート (kbps/VBR)	: 32、48 ~ 192

■MP3/WMA 部

セクタ構造	: CD-ROM モード 1、 モード 2- フォーム 1 (自動判別)
論理フォーマット	: ISO9660 レベル 1,2/Joliet/Romeo
フォルダ構造	: 8 階層 1 フォルダあたり最大 255 ファイル
ファイル数	: 最大 255 ファイル (ファイル+フォルダ数 (ルート含む) の最大値は、512)
ファイル名	: 64 (1byte 文字で 64 文字)
フォルダ名	: 最大 64byte (1byte 文字で 64 文字)

[MP3]

MP3 デコード : MPEG-1、2、2.5
オーディオレイヤー 3 準拠

サンプリングレート (kHz) :

MPEG-1 : 32、44.1、48

MPEG-2 : 16、22.05、24

MPEG-2.5 : 8、12

ビットレート (kbps/VBR) :

MPEG-1 : 32 ~ 256、
320

MPEG-2 : 32 ~ 256、
320

MPEG-2.5 : 32 ~ 256、
320

[WMA]

サンプリングレート (kHz) :

8、16、22.05、32、44.1、48

ビットレート (kbps/VBR) :

32、48 ~ 192

■ AUX 部

周波数特性 : 20Hz to 20kHz
±3dB

分離度 : 70dB (1kHz)

高調波ひずみ率 : 0.3%

■ オーディオ部

定格出力 : 17W × 4 (20Hz ~
20kHz、1%、4 Ω)

最大出力 : 45W × 4

トーンコントロール

BASS : ± 6dB (100Hz)

TREBLE : ± 6dB (10kHz)

MIDDLE : ± 6dB (1kHz)

■ Bluetooth 部

受信周波数 : 2400MHz ~
2483MHz
(1MHz ステップ)

受信感度 : - 70dBm 以下

規格 : Ver3.0 + EDR

■ 共通部

電源電圧 : DC13.2V
(10.8 ~ 15.6V 許容電圧範囲)

接地方式 : マイナス接地

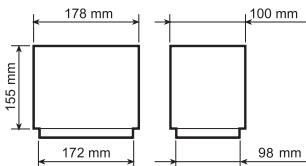
消費電流 : 15A 以下

ヒューズ定格 : 15A

外形寸法 : 178 (W) ×
100 (H) × 155 (D) mm

質量 : 1.3kg

● 本体部



■ 付属品

- ・取扱説明書 1 部
- ・保証書 1 部
- ・電源コード 1 本
- ・取付ネジ (M5 × 8) 8 本

※ これらの仕様およびデザインは、
改善のため、予告なく変更する
場合があります。

WMDRM10 について

- この製品は財産権により保護されています。この製品外での当該技術の使用または配布はマイクロソフトの許諾がなければ禁止されます。
- コンテンツオーナーは著作権を含む自らの知的財産権を守るためにウィンドウズメディアデジタル権管理技術（WMDRM）を使用しています。このデバイスは WMDRM によって保護されたコンテンツにアクセスするために WMDRM ソフトウェアを使用しています。WMDRM ソフトウェアがコンテンツの保護に失敗した場合、コンテンツオーナーは保護されたコンテンツを再生またはコピーするために WMDRM を使用するソフトウェアの能力を取り消すようマイクロソフトに依頼することがあります。この取り消しは保護されていないコンテンツには影響しません。あなたが保護されたコンテンツ用にライセンスをダウンロードするとき、あなたはマイクロソフトがライセンスとともに取り消しリストを含めることができることに同意します。コンテンツオーナーはそのライセンスにアクセスするための WMDRM をアップグレードするようあなたに求めることがあります。あなたがアップグレードを差し控えた場合、あなたはアップグレードを必要とするコンテンツにアクセスすることはできません。

アフターサービスについて

■ 保証について

この商品には、保証書が添付されています。必要事項を購入店で記入しますので記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、再発行はいたしませんので、ご注意ください。

■ 保証期間

お買い上げの日より 1 年間です。

■ 万一故障が発生した場合

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証書の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。ただし、脱着にともなう工賃は、お客様のご負担となります。

お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

■ 保証期間経過後の修理について

修理することにより性能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

■ 補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）は、製造打ち切り後 6 年保有しています。

■ ご質問・ご相談について

本機に関するご質問・ご相談は、最寄りの弊社修理相談窓口または弊社お客様相談室にお問い合わせください。

取付説明

取付作業前のご確認事項

■ 付属品について

- ・付属品の構成は、取扱説明書の「仕様」の項目に記載してあります。取付作業の前に付属品をご確認ください。

安全に正しく取り付けていただくために

■ 作業をはじめる前に

⚠ 警告

- 本機はDC12V車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車では使用しない…
火災や故障などの原因となります。
- 取り付け作業前には、バッテリーのマイナス側ケーブルを外す…
プラス⊕とマイナス⊖経路のショート事故による感電やけがの原因となります。

⚠ 注意

- 本機の取り付け・配線には専門技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口にご依頼する…
誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行う…
エアバッグが誤動作する原因となります。

■ 取付場所について

⚠ 警告

- 本機を次のような場所に取り付けない…
 - ・前方の視界を妨げる場所
 - ・ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所
 - ・同乗者に危険を及ぼす場所

交通事故やけがの原因となります。

- エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機に取り付けと配線をしない…

エアバッグ動作を妨げる場所に取付・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、事故の原因となります。

⚠ 注意

- 雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへは取り付けない…

本機に水や湿気、ほこり等が混入すると発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- 振動の多いところなど、確実に固定できないところには取り付けない…

本機が外れて、事故やケガの原因となることがあります。
- 直射日光やヒーターの熱風などが直接当たるところや、本機の通風穴や放熱部をふさぐところには取り付けない…

本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

■ 取付上のご注意

⚠ 警告

- 車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認のうえ、これらと干渉や接触することがないように注意する。また、加工部のサビ止めや浸水防止を施す…

火災や感電の原因となります。
- 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しない…

これらを使用しますと制動不能や発火、事故の原因となります。

⚠ 注意

- 必ず付属の部品を指定通りに使用する…

指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れることがあり危険です。
- 車体に穴を開けてコード類を配線するときは、絶縁性グロメットを使用する…

開口部とコード類との接触により、すり切れてショートし、事故や火災の原因となることがあります。

取付説明

■ 結線上的ご注意

⚠ 警告

- 本機の電源端子をバッテリーに直接接続する場合は、指定容量以上の電源コードを使用する… 

指定容量に満たないコードを使用すると、電流容量をオーバーし、火災や感電の原因となることがあります。

- 接続コード類の配線は高熱部を避けて行う… 

コード類の被覆が溶けてショートし、事故や火災の原因となります。特にエンジンルーム内の配線には注意してください。

- コード類は、運転操作の妨げとならないようにテープなどでまとめておく… 

ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしない… 

電源コードの電流容量をオーバーし、火災や感電の原因となります。

⚠ 警告

- 接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープなどで絶縁する… 

ショートにより火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 取付説明書で指定された通りに接続する… 

正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

- コード類の結線終了後は、コード類をクランプや絶縁テープで確実に固定する… 

コード類が車体部分との接触により、すりきれてショートして、事故や火災の原因となることがあります。

- 車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まないように配線する… 

断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

■ 作業が終わったら

⚠ 警告

- 取り付けと配線が終わったら、ブレーキやライト、ホーンなどの電装品が元通り、正常に動作することを確認する… 

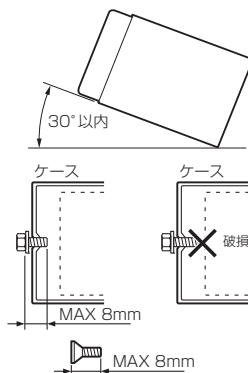
正常に動作しない状態で使用すると火災や感電、事故の原因となります。

取付上のお願い

- 本機は、水平面から 30° 以内で取り付けてください。
- 日産車への取り付けは、一部の車種を除き別売の取付キットが用意されています。またトヨタ車への取り付けは、一部の車種を除き、車両の取付金具を使用して取り付けることができます。
- 車種や年式により、専用の取付キットや市販のネジ (M5x8mm サラネジ) が必要となる場合もあります。販売店にご相談ください。

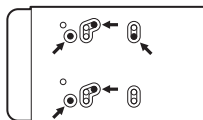
警告

- 取り付けには、必ず付属のネジを正しくご使用ください。指定以外のネジを使用すると、事故や故障の原因となります。

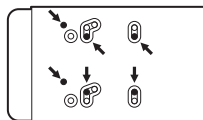


取付穴について

本機には、日産車用、トヨタ車用、当社車種別キット用の取付穴が設けられています。当社の（別販）取付キットを使用する場合は、車種によって多少異なりますが、●印穴のいずれかを使用して取り付けます。詳しくは取付キットに同梱の取付説明書をご覧ください。



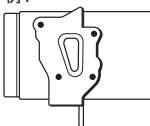
* 上図の●部は、日産車に取り付ける場合に使用する穴です。



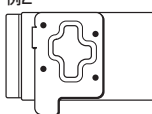
* 上図の●部は、トヨタ車に取り付ける場合に使用する穴です。

<取付ブラケットの例>

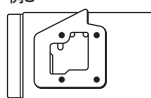
例1



例2



例3



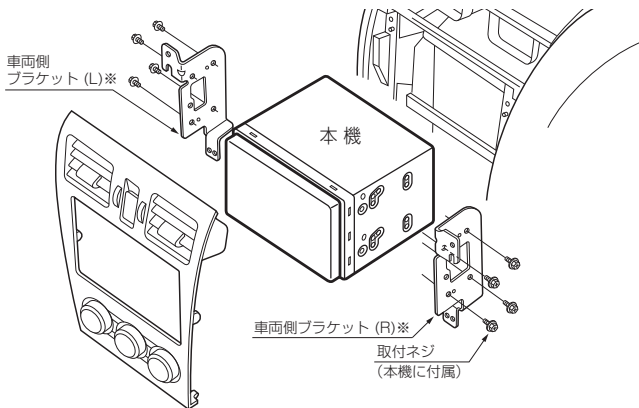
●印はネジ止め箇所です。

取付説明

取付例

- ここでは、車両取付金具にそのまま、取り付けする時の取付例を紹介します。

車側 取付金具使用例



- ※ 車両側ブラケットは車種によって位置決め突起（ツメ）が本体に接触する場合があります。その場合は金ヤスリ等で削り落とし、取り付けしてください。

結線のしかた

⚠ 警告

- 配線作業中は、バッテリーのマイナス側のケーブルを外してください。

ショート事故による感電やケガの原因となります。また、ショート事故による機器内部の部品を破損する原因となります。

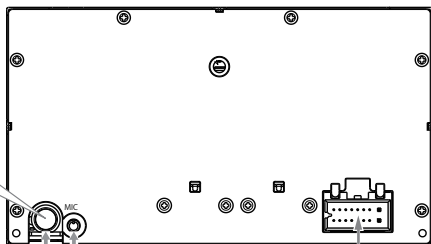


- メイン電源コードを接続する車側電源端子が、15A以上の電流容量であることを確かめください。15A未満のときは、15A以上の容量を持つ電源コードを使用して、バッテリーに直接接続してください。なお、作業は販売店に依頼してください。
- バッテリーと直接接続する場合は、容量20A以上で耐熱性を有する自動車用電源コードを使用し、必ずヒューズを装着してください。

アンテナ入力

本機のアンテナ入力端子は、メインアンテナ入力のみです。車側がダイバーシティアンテナの場合は、メインアンテナのみを接続してください。

※車側の端子と合わない場合は、別売のアンテナ変換コードを使用してください。詳しくは、販売店にご相談ください。



(別売マイク)
RCB-204-500/RCB-175-500 接続可

アンテナ入力
車側のアンテナ端子
を接続します。



次ページ参照

⚠ 注意

- ・ショート事故防止のため、電源コネクタを接続する前に、結線内容を再度確認してください。

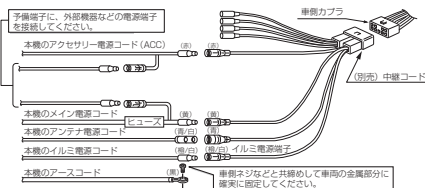
取付説明

電源コード

車種別の専用取付キット(中継コードキット、別売)を、ご使用ください。また、適合車種については販売店にご相談ください。

注意

- 接続しない端子は、金属部に触れないように、端子を絶縁テープなどで覆ってください。



スピーカーコード
スピーカー端子と接続
します。

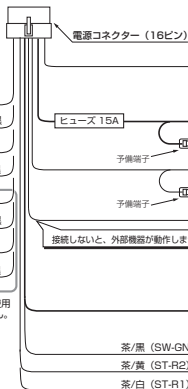
フロント右側

フロント左側

リア右側

リア左側

※2スピーカーシステムでご使用
になる場合は、接続しません。



イルミ電源コード

車側のイルミ用電源端子に接続すると、本機の電源オンのときに車のライトを点灯させると、ディスプレイが滅光します。電源オフのときに車のライトを点灯させると、ボタン照明が点灯します。

メイン電源コード

エンジンキーのオン/オフにかかわらず、常時ヒューズ定格アンペア以上の電流を供給できる電源端子に接続してください。

アクセサリ (ACC) 電源コード
エンジンキーでオン/オフできる電源端子に接続してください。

アンテナ電源コード/リモートオンコード
パワーアンテナ、ガラスアンテナまたはシートボウルアンテナ (アンテナアンプ付) 等装着車の場合、車側のアンテナ電源端子と接続してください。

※他の機器や手動または半手動のアンテナ装着車には接続しないでください。

または、パワードサブウーファーなどのリモートオンコードと接続してください。(同時に使用する場合は、分岐して使用してください)

アースコード

自動車の金属部にネジなどで確実に接続してください。

ステアリングホイールリモートコントロール接続コード (別売)



※ステアリングホイールリモートコントロール接続ケーブルの取付方法についてはステアリングホイールリモートコントロール接続ケーブルの取付説明書をご覧ください。

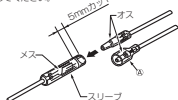
※適合車種については販売店にご相談ください。

※2信号しかない車両はST-R1とSW-GNDを接続してください。

※ステアリングホイールリモートコントロールの操作、および設定方法については、「システム設定をおこなう」(15~17ページ)をご覧ください。

電源(予備端子・アンテナ電源/リモートオン・ステアリングホイールリモートコントロールコード)およびスピーカー端子

端子の接続は、オスとメスがロックするまで差し込んでください。オス端子が下図Aタイプの場合は、メス端子のスリーブを約5mmカットしてください。



注意

- 接続しない端子は、金属部に触れないように、端子を絶縁テープなどで覆ってください。

ヒューズ

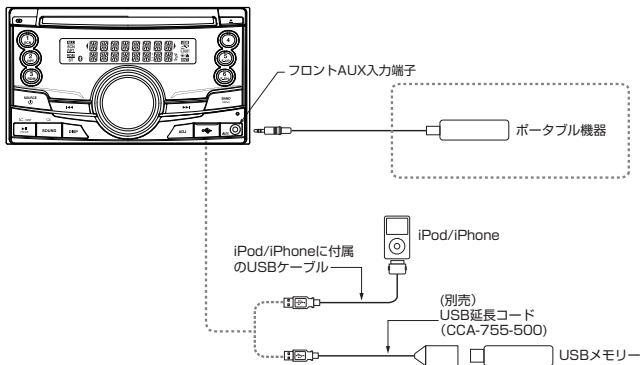
ヒューズが切れたときは、ショート事故防止のため次の手順で、入っていたものと同じ容量のヒューズと交換してください。

警告

- ヒューズを交換するときは、同じ容量のヒューズを入れてください。
- 入れ間違えると故障の原因となりますので、アンペア数をお確かめのうえ、交換してください。

■ システム例

2DINレシーバー



クラリオン株式会社

〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心7番地 2
Clarion ホームページ

<http://www.clarion.com>

製品についての「よくあるご質問」は以下サイトで閲覧できます。
<http://www.clarion.com/jp/ja/user-support/faq/>

お問い合わせは、クラリオン「お客様相談室」へ
フリーダイヤル ☎ 0120-112-140

受付時間：9:30～12:00、13:00～17:00

（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

保証書で以下内容をご確認頂くと、スムーズな応対ができます。

お買い上げ日、販売店名、製品型名